府中市生涯学習審議会（令和元年度第４回）会議録

１　日　時　令和２年３月２６日（木）午前１０時～１１時２０分
　　※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、会議時間を短縮して実施
２　場　所　府中駅北第２庁舎３階　会議室
３　出席者（敬称略）
⑴　委員１１名
岩久保早苗委員、木内直美委員、佐野洋委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、津田仁委員、友田照子委員、中村洋子委員、長畑誠委員、福田豊委員、藤井孝弘委員
※大谷久知委員、乙津俊博委員、渡邊和子委員、渡辺たき子委員欠席
⑵　職員３名
楠本文化生涯学習課長補佐、柏木生涯学習係長、諫山事務職員

４　報告事項
⑴　配布資料の確認
ア　資料１　府中市生涯学習審議会（令和元年度第３回）会議録（案）
イ　資料２　都市社連協　第５ブロック研修会資料
ウ　資料３　都市社連協　交流大会・社会教育委員　研修会資料
エ　資料４　都市社連協　第４回役員会資料（抜粋）
オ　資料５　都市社連協　第５回役員会及び第２回理事会資料（抜粋）

⑵　前回議事録の確認
各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

⑶　各小委員会の報告
副会長：　小委員会①について、前回報告した内容から追加になった第３回小委員会の部分を報告する。第３回小委員会は、１月２３日（木）に開催し、１月１７日（金）に実施した生涯学習センター及び生涯学習ボランティア「悠学の会」へのヒアリングを踏まえて協議した。
検討課題は、基本施策１「誰もが学べる環境づくり」の中の重点施策「新たな参加者を促す学習環境づくり」と基本施策３「生涯学習を支える基盤の整備」の中の重点施策

「生涯学習の広報の強化」である。

「新たな参加者を促す学習環境づくり」について、話し合った内容は次の４点。

・府中市としての方向性を明確にし、市（各部署）として施設や団体に対する積極的な関わりを持つ仕組みを作るべきではないか。同時に，各所で実施されている生涯学習について市としての自己点検や自己評価を行うべきである。

・学習者ニーズの把握と、それらニーズに対応させる修学メニューや講座を適切にマッチングさせることがポイントであることが確認された。地域で開催されている催しとして、例えば、防災危機管理課が実施する訓練や町内会の防災訓練・指導、中学校での課外授業（炊き出し等）が具体的にあがった。地域防災講座や介護や災害ボランティア講座などの地域活動に資する教育メニューがあるとニーズに応えられる。

・「学び返し」のテーマの下に「共助・自助」をその方向性とするキーワードとし、教養から実用を指向した講座を増やすことが必要であるとの確認をした。同時に「動機付け」が必要であることが議論された。例えば，学んだことを教える活動や、身に着けた技能を使って支援することに対し、対価保障をすることが考えられる。例えば、教育技能や教授能力の担保をする講座を実施し、修了証の付与を行う。また学び返しの活動に対し、その活動に見合う対価を等価交換できる地域クーポンを流通させるなどが想起できる。

・「学び返し」や「共助」の推進には、「コミュニティスキル」が重要である。このスキルは、相互交流をするにあたっての意見交換の技能や合意形成の技能、その道具立てとしてのデジタルリテラシー等をいう。可能ならば府中市らしいコミュニティスキルを定義し、市としての方向性の中に明記して、市内の学習施設や事業に対し、基本方針として組み込み、講座化されることが望ましい。こうした取り組みは、地域再活性に役立つほか、世代間交流に役立つ。同時に、学び返しを含む知識流通に寄与する。

ポイントとしては、「学び返し」のテーマの下に「共助・自助」をその方向性とするキーワードとし、教養から実用を指向した講座を増やすことや、修了証の付与等の学習者

の動機づけなどが必要と考える。

合意形成や意見公開、地域活性化が重要視されている中で世代間の意見交換あるいは地域内での合意形成にはコミュニティスキルが必要という議論がされた。

「生涯学習の広報の強化」については、ヒアリングを通して、悠学の会が活発に活動していることがわかったので、悠学の会に支援をお願いすれば、地域密着型の広報活動が実現するのではないか。

また、デジタルメディアを通じて積極的な広報活動を行うという意見が出た。

会長：　小委員会②について、前回報告した内容から追加になった第３回小委員会の部分を報告する。第３回小委員会は、１月２０日（月）に開催し、１月１７日（金）に実施した生涯学習センター及び生涯学習ボランティア「悠学の会」へのヒアリングを踏まえて協議した。また、小委員会②では２月２６日（水）に新町文化センターにて文化センターヒアリングを実施した。

生涯学習センターも文化センターも生涯学習の重要な拠点として、様々な講座を実施していることがわかった。設備としても充実していると感じた。また、生涯学習センターを拠点として活動している「悠学の会」が「学び返し」を行っているなど市民による実践的な活動をしていることが特徴としてあげられた。

「学び返し」という点については、生涯学習センターでは市民企画講座、生涯学習フェスティバルがあり、「学び返し」をする機会はある。文化センターの特徴は、社会教育関係団体（自主グループ）の活動拠点であるだけではなく、コミュニティ協議会というものもあり、地域交流や自主活動が行われている。

どちらの施設も文化的な活動を支援する面が大きい。文化的活動の具体的な分野としては、美術・工芸、音楽、舞踊、語学、生活文化、子育て、人文・自然等がある。

地域や現在社会が抱えている困りごとの解決につながるような社会教育が求められているのではないかと全国的に言われており、府中市でもそのような視点が必要なのではないか

と考える。学んだことを地域に還元するという流れに力を入れることが大切。

生涯学習センターは、市の生涯学習活動の中心として地域課題や困りごとの解決といった地域に還元できる「学び返し」として何ができるかを今後検討していく必要がある。

文化センターについては、コミュニティ協議会の高齢化や社会教育関係団体（自主グループ）の数が減少傾向にあるという問題がある。その巻き返しを図るためにも、地域の困りごとや活動意欲を満たすような講座をどのように提供していくかを今後検討していく。すぐに実現することは難しいかもしれないが、高齢者福祉や児童福祉、防災とうまく繋げた講座を企画し、住民の活動支援をしていくことも必要と考える。

小委員会②としては、地域の困りごとの解決、「共助の促進」につながるような、「学び」と「返し」のシステムをどのように作っていけるかを今後検討する必要がある。また、生涯学習センター文化センター、プラッツ、各地域の住民組織等が何らかの形で連携して「学び」と「返し」を進めていくためにはどうすればよいかを検討すべきではないか。

5　審議事項

⑴　第３次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けて

会長：　本日は、小委員会①の内容を重点的に話し合いたいと思う。まず小委員会①の委員の皆様から意見を伺いたい。

委員：　自分も社会教育関係団体（自主グループ）に所属しているため、高齢化による問題に直面している。若い方に団体に入ってもらうためにはどうすればよいかを話し合っている。働いている若い方々を対象に考えた時に、午後７時頃から活動できると良いのではないかという意見も出ているが、「学び返し」をしたい気持ちはあるが、自分たちがその時間に外に出るのは難しいとの意見も出ている。しかし、いかに活発に社会教育関係団体（自主グループ）が活動できるようにするかを今後検討したいと思う。

コミュニティ協議会の中に老人クラブがあり、そのクラブの中には社会教育関係団体（自主グループ）にも所属し

ている方々がいる。集約するという意見も出ているが、なるべく別々で対策を考えて運営できることが望ましいと考える。

委員：　「生涯学習の広報の強化」の際に話が出ていた、デジタルメディアの積極的な活用についてだが、年代によってネットメディアの活用が様々だと考える。最近の若い人は、ツイッターやインスタグラム、フェイスブックがコミュニケーションツールになっていると感じる。提供する側がなかなかそれに対応が難しい現状もあるのではないか。若い人を取り込むには、若い人に合った広報が必要。

委員：　文化団体についても、高齢化は問題となっている。積極的に活動したいと思っているが、若い人が入ってこないと、これから先が心配という声も出ている。高齢化しているから仕方がないと諦めるのではなく、どうすれば高齢化が課題となっている団体が今後も活発に活動していけるかを検討していきたいと考えている。

　広報については、積極的に行っていきたいと思っているが、団体によっては情報発信の手段が限られてしまうところもあるので、その点についての支援も必要だと思う。

会長：　文化団体は、具体的にどのようなものがあるのか。

委員：　文化団体３５団体の中でも伝統文化は幅広い分野があり団体数もたいへん多く、書道、生け花、茶道、俳句、囲碁、将棋、日本舞踊、民踊、そして、美術系、園芸系、邦楽系、伝統芸能などがある。これらの活動は、時間を自由に使える高齢者が行っていると思われるかもしれないが、若い方にも活動内容を知っていただき、興味を持って参加してほしい。

委員：　生涯学習センター及び生涯学習ボランティア「悠学の会」へのヒアリングを通して、現在の講座の設定や運用の仕方については民間のスキルやメリットをうまく活用していると感じた。交流を通じて生きがいを支える面をうまく実現している点で効率的に運営されていると思った。生涯学習のポイントである、地域やコミュニティの問題解決の面が、もう少し講座の構成に反映されていると良いと感じ

た。堅い言い方をすれば、コミュニティにおける公共圏の形成やソーシャルキャピタルの醸成につながるような講座の趣旨を意図した方が良いのではないかと考える。

小委員会①では、「コミュニティスキル」と「デジタルリテラシー」をキーワードとして議論してきた。それらの点にフォーカスをすると、コミュニケーションが重要となってくる。コミュニケーションの促進のために、新しいメディアの活用を含めて戦略的に取り組むことが望ましいと考える。

広報については、ハイブリッド型の情報共有が大切。つまり、つながりにおいては、アナログつながりとデジタルつながりを構想することが必要ではないか。高齢の方は、デジタルメディアの活用がわからないことが多い。活用できるようになるためには、道具立てに対する知識が必要となり、それが無いと何が解決できるかがわからない。どのような道具があるか知ることで、不可能と思っていたことが解決につながることもある。デジタルメディアの活用に対してアレルギーを持つ方を支える人のつながりが必要。この人に頼めば大丈夫と思えるような人的つながりがあることで、工夫ができるようになる。デジタルメディアの活用とハイブリッド型のつながりを講座展開にも取り入れていく必要があると感じた。

委員：　「新たな参加者を促す学習環境づくり」という点では、若い人向けの講座、高齢者向けの講座、就労者向けの講座といった具体化が必要ではないか。現状を見ていると、年齢層を問わないカルチャーセンター的なものが多く感じる。小学生向けのような講座は多く見かけるが、もう少し上の若年層向けの講座は少ないように思う。したがって、若年層の参加率が低いのも納得がいく。若年層向けの講座を増やした方がよいのではないか。具体的には、引きこもり、ネットカフェ難民、ワーキングプア等の現代社会における若者の切実な問題を受け止めて、不安や悩みを語り合うとともに生きづらさや働きづらい現状について学習しながら、より良い生き方や働き方を模索する講座を企画して

はどうか。

会長：　今までの流れを軽く整理すると、若い方々や働いている方々の新規参入をどのように促すかがポイントとなる。広報については、デジタルとアナログを組み合わせるという意見が出た。

　また、「学び返し」や「共助」の推進には、コミュニティスキルが重要である。そして、「学び返し」のテーマの下に「共助・自助」をその方向性とするキーワードとし、教養から実用を指向した講座を増やすことが必要である。

　それでは、小委員会①の皆様から意見をいただいたので、次に小委員会②の皆様から意見をいただきたい。

委員：　小委員会①で出ていた、教養から実用を指向した講座を増やすことが必要という意見に賛成。また、市として方向性を明確にすることが大切だと考える。今後は地域の問題や市民が抱えている困りごとを解決する講座を提供することが重要ではないか。また、その講座が「学び返し」であることがわかるように講座名の後に「―学び返し講座―」と明記してはどうか。

委員：　生涯学習とインターネットは切り離せない。そのためには、パソコンやスマートフォン、タブレットなどの活用の知識が必要となってくる。文化センターでは、パソコン関係の講座はほとんど実施しておらず、平成３０年度に四谷文化センターで１件あるくらいのようだった。生涯学習センターでは、パソコン講座を多く実施している。

　また、生涯学習施設としては、男女共同参画センターフチュールもある。ここでは１０数のパソコンクラブがあるようだ。こういったところも活用したら良いのではないか。

委員：　ネットメディアの活用は、ポイントになってくる。ネットメディアの活用という動きを分解していくと、生涯学習そのものの講座が出てくると思う。活用する仕組みを作る、流す内容を作る、利用者の教育をする、インフラをどう解決するか課題を作る、ネットメディアの活用を考えるプロセスそのものが生涯学習であり、社会還元になる大き

な課題だと考える。

講座については、年代別にどう働きかけたら良いのかというテクニカルな部分の講座が足りない気がしている。講座の早いフィードバックを取るという仕組みが少し不足しているように感じる。講座はたくさんあるので、その講座をどのように活かしていくかの仕組みづくりが必要。全体をどのようにコーディネートするかという部分のスキルがファシリテーターにあっても良い。仕組みが無いなかで、ファシリテーターに活動をしてほしいと思っても、なかなか課題解決に結びつかないと考える。仕組みに目を向けることが重要ではないか。

広報としては、市報のページ数が限られているため、市報だけでは十分な情報を得ることが難しい。

委員：　最近、人とのつながりの大切さを改めて感じることがあった。講座で知り合った２０年来の友人から「ＮＨＫで放送しているパンデミックの番組を見てほしい」とのメールが届いた。見てみると、ヨーロッパの医療関係の学者２人が現在の惨状を踏まえ、医療崩壊について訴える内容だった。翌日、番組で学んだ内容を紙にまとめて子どもたちに伝えた。その時に、自分の役割は、伝えることなのではないかと感じた。アナログでも、伝えることの大切さを感じた。

会長：　学んだことを伝えるというのは、「学び返し」の第一歩である。先ほども出てきた、コミュニティスキルにもつながる。

副会長：　先ほど出てきた伝統文化については、古いものに固執せず新しいものでも皆が参加できるものに還元することが大切。または、昔のものを復活させて現代的にして伝統化していくということもあると思う。そのためには、若い世代に参加してもらうことが必要である。府中市で実施している、よさこい祭りも１つの伝統になってきていると感じる。詩吟なども披露する場を形成している。自己開示の場があり、多世代が参加しており、伝統的祭りに組み入れることができて、毎年毎年実施して５年・６年経つと、それ

は伝統になると思う。従来の伝統も、出ては消え出ては消えを繰り返している。伝統は作っていけば良いと考える。

会長：　キーワードがいくつか出てきた。多くの世代の方たちが集まり、活動できる場につながれば良い。様々な世代を巻き込んだ生涯学習という考え方。

副会長：　各世代毎に適合したものと多世代が一緒に活動できるものの２種類が考えられる。

会長：　今後は、教養系講座だけではなく、実用系講座を実施し、地域の課題解決につながるものを強化することが必要である。また、そこと関連して、デジタルメディアの活用の検討が必要。

委員：　大変良い方向に進んでいると思う。その中で、大変なのではないかと感じるのは、「あらゆる世代に向けた」というキーワードは、コンセプトとしてとても良いと思うが、それを実際に講座に反映させることは難しいのではないか。問題解決の方法は、年齢世代やエリア・地域によって違う。問題をブレイクダウンあるいはセグメンテーションしていくことすら難しいのではないかと感じる。ただし、「あらゆる世代に向けた」というコンセプトは大切にしていきたいので、そこの兼ね合いが難しい印象を持っている。一挙には難しいため、時間差やウエイト分けをするなど工夫をしながら少しずつ試みる形になるのではないかと思う。

会長：　おっしゃるとおり、なかなか多世代が一緒に集まる機会が少ないので、難しいと思う。関係してくると思うので、もう少しコミュニティスキルについて説明いただきたい。

委員：　地域のつながりをつくるため、あるいは、コミュニティを形成して育てるためには、ある程度の知識が無いと難しい。アメリカのオレゴン州にソーシャルキャピタルが非常に蓄積されていて世界的に有名なポートランドという街がある。そこにあるポートランド大学で、シビックスキルという講座を運営している。大学が核となりながらも市民として活動し、さらに自治体と連携を取っていけるレベルまで地域活動ができるためには、市民にある程度のスキルが

無いと難しい。ここからヒントを得て、地域のコミュニティを活性化する、あるいは、協働体制を組み上げていくためには、それなりに必要な道具立てがあるはずである。その１つは、合意形成。そのためには、意見交換をし、双方向的なコミュニケーションが必要。男性はビジネスフィールドに生きており、どうしても一定の上からの指令系統で行動することに慣れきっているところがあり、コミュニティに入るとうまく機能しないことがある。そういったことを払拭し、世代間・男女間でうまく合意を形成するためには、ある程度の実践的な経験が必要。どうしてコミュニケーションをとるのかというメディアに対する知識など、様々なものを包括的に捉えた概念。デジタルメディアの重要性も含め、コミュニティスキルとして、コミュニティに引き付けて考えるべきではないか。

会長：　生涯学習センターで実施している、生涯学習ファシリテーター養成講座でもそのような機能を持てればよいと感じた。

委員：　現在、学校が休校となり、子ども達に目を向け、世代対応型の講座・育成の視点で考えると、子ども達には子ども達なりのリーダー育成があるのではないかと感じた。ボーイスカウトやガールスカウトが地域的にあると良いと思う。地域貢献や地域活性など、返した結果何ができるか、地元の中学生や高校生といった若年層が、自分にできることは何か見つけることができるような働きかけがあれば良いのではないか。若年層に対して、早い段階から機会や考え方をインプットすることが大切だと考える。

委員：　自分が苦手な分野にも挑戦していくことが大切だと考える。

会長：　府中市の目指す「学び返し」は「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくことである」と定義されている。これを、「地域に住む多様な市民が、それぞれの経験や能力を活かして地域や社会のニーズに応え、課題解決に向けて活動していく」と捉えることが必要ではないか。今後、議論していきたいと考える。

７　その他

⑴　次回の開催について

出席委員の都合を挙手にて確認し、事前に確認した欠席委員の都合と調整し、５月２９日（金）午前１０時～１２時で開催することが決定した。